

「現代病の多くは 自然療法に 期待できる！」



大阪府 [クリニック]
医学博士

吹野 治 さん

はじめまして、「ふきの予防医学研究所」の吹野です。私は長年に渡り某総合病院の内科医をしていました。医師も長くやると現代医療の矛盾点や現代医学ではどうにもならないことに日々直面します。私は医療を別の視点で捉えてみたくなり自然療法を用いた、クリニックを開院しました。主に病気の予防と治療に取り組んでいます。今回、アーク光線療法を取り入れることにしましたが、その導入の理由を述べてみたいと思います。

- ① 自分自身、過去に体質改善目的で光線療法を行ったことがあり良好な印象（効果の実感）を持っていたこと。
- ②（総合）光線療法が自然療法として古くより行われており、安全性の面で大きな問題はないと考えたこと。
- ③ 地球温暖化やオゾン層破壊などにより有害な紫外線などが過度に懸念される中、戸外にいる時間が少なくなるなどの生活スタイルの変化もあり、現代人は「光線欠乏」に起因する自然治癒力の低下がいろいろな病気の一要因になっていると考えたこと。
- ④ また導入できそうな部屋と協力できる人材と業者を得られたこと。
- ⑤ 光線治療器の取り扱いがコンピュータ制御で比較的簡単であったこと。
- ⑥ 自分や家族も利用出来ること等によりです。

まだ始めたばかりですが、来所された方には症状など軽快し喜んでもらっています。今後、生活習慣の改善指導とあいまって、光線療法がどのくらい来所者の健康管理に貢献できるか検討していきたいと思っています。また、出来れば光線療法を取り入れている機関とも情報交換など行い、より良いサービスにつなげていきたいと考えています。現在では、口コミにより全国より多くの患者が来院しております。その大半は現代医学に見放された重度の疾病を抱える方々です。日々、病魔と闘う多くの患者に希望の光を与えていけたらと思っています。

現代の医療の限界と、対症療法に頼る現代医学の弱点を身にしみて感じる事が、中、光線療法はまさしく現代医学の弱点を補うものと、自然を忘れた現代人には、必要不可欠なものだと思います。

「今まで知らな かった 光線療法に 目から鱗が！」



長崎県[クリニック] 医師

渡邊 文治 さん

私は、長崎市の北部に隣接する、西海市という人口3万人の町で開業しています。開業して12年目になるところです。私と妻の二人で内科、小児科、リハビリテーション科を標榜して診療しています。さて、アーク光線療法を取り入れようと思ったきっかけですが、平日頃から現代医学では治癒しない病気が多いと思っていました。特に慢性の皮膚疾患や関節痛では、病気を押さえ込むことさえ困難で、病気の根本を治すことがなかなかできないのが現状です。現在の私共の治療ですが、小児のアトピー性皮膚炎では、ステロイドに皮膚用剤を混ぜ、その割合を変えながら、顔、躯幹、頭部等位別に処方し、それでも夜など痒み強いときは、痒み止めを内服してもらいます。軽度の場合は、それで一時的に改善しますが、また季節の変わり目などに症状が出現し、また同様の治療を繰り返しますと、小学校に上がる頃には殆んど治癒します。これは、本人の体力や免疫力等の自然治癒力がついてきて治っていくのだと思います。ですから我々は、その間少しでも痒みを軽くしながら付き合っていくというわけです。しかし一部の重症の子供は、軽快せず喘息も併発するなど治癒しません。さらに成人のアトピー性皮膚炎についても、重傷が多く、長年ステロイド治療をしてもなかなか治癒ということにはなりません。疾患を跳ね返すだけの自然治癒力がつかないのでしょうか。このような状態をなんとか治せないものかと思っていたとき、知り合いの医師からこの光線療法を聞きました。参考書籍やパンフレットを読み、また知り合いの話聞き、有害紫外線だけを取り除いて、副作用なくきわめて安全に自己の免疫力を高め、自然治癒力を増強させることを知り、これは期待できると考えて院内に導入しました。治療を開始して予想以上の効果に驚いています。また治療は患者に苦痛どころか、暖かな光は患者の心までを癒しているかのようです。始めは1台の機器の導入でしたが、足りなくなり追加で機器を増やした次第です。さらに現在、腰痛症等の人に、疼痛緩和のためマイクローエーヴを当てていますが、発熱するためペースメーカーを使用している人や骨折で骨に金属を入れてる人には使えません。光線療法はそういうこともないので、使用の幅が広がるようです。まずは、アトピー性皮膚炎等の皮膚疾患の人に役立てていきたいと思っています。

